


## 2 道徳授業における指導

### (1) 学習指導案研究

赤堀教科調査官よりご助言を頂き修正していった。生徒の意識の流れに沿って一貫性をもたせた指導案研究を進めてきた。学習指導案は、誰が見てもわかるように記述を工夫し学校の共有財産として蓄積している。

■ 指導観	赤堀調査官のご指導
<p>1 主題名 先達から学ぶ郷土愛</p> <p>内容項目 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <p>郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p> <p>資料名 「伊豆の歌人 穂積忠」 出典『歌人 穂積忠』(桜井洋行)より抜粋し編集</p>	<p>→ ねらいと資料で構成した主題を端的に表したもの</p> 
<p>2 主題設定の理由</p> <p>(1) ねらいとする価値</p> <p>地域社会は都市化や過疎化によって愛着や郷土意識が希薄になっている傾向がある。しかし、地域社会のもつ教育力があらためて強調されているように、地域社会の自然や文化は、子どもたちの成長にとって大切な環境である。その環境の中で、生徒は少なからず、地域の人々と関わりから成長している。</p> <p>生徒たちは、自我の意識が高まり自分だけの世界に閉じこもり、自分だけで存在していると考えがちである。このような傾向を考えると、生徒が自分だけで存在しているのではなく、「家族」や「地域社会に尽くした先達」によって自分が支えられていることを自覚して、その先人の努力によって築かれ守られてきた郷土の自然や文化への尊敬や感謝の気持ちを育むために、とても意義のあるものと考えこの主題を設定した。</p>	<p>→ 授業者の指導観</p> <p>→ 授業者の価値観</p> <p>授業者が「郷土愛」の指導に際して大切にしていること</p> <p>※ このことは、本時だけでなく、日常の教育活動における「郷土愛」に対する授業者の思いでもあります。</p>
<p>(2) 子どもの実態</p> <p>生徒たちは、高台に位置した学校から望む美しい富士山の景色を見て毎日生活している。また狩野川沿いに形成される大仁地区の田園風景に慣れ親しんでおり、景色の変化は気づいても恵まれた環境のもとで生活している事にあまり実感がもてていないように思われる。</p> <p>昨年、反射炉が世界遺産に認定され、多くの観光客が訪れ地域の活性化が期待されている。生徒たちにとって反射炉は葦山地区のものであり、「自分たちの郷土としての誇り」としての意識はそこまで高くない。昨年度末に行われた「道徳アンケート」では、「今住んでいる伊豆の国市が好きだ」という項目について、80%が「そう思う」「思う」と答えている。しかし、その理由については、反射炉を挙げた記述はごく僅かであった。「好き」と思う多くの理由は、友人をはじめとする人との関わりに関するものが多く、自分の身近なものだけで郷</p>	<p>→ _____は授業者の価値観</p> <p>→ 生徒観</p> <p>郷土愛に関わる授業者の思いを各教科等の指導でどのように具体化し、その結果としての生徒のよさや課題は何か。そのうえで、生徒の郷土愛についてどのようなことを考えさせることが必要か。</p> <p>→ 生徒の様子と共に、その背景となった具体的な指導を記したい。</p>

【加除修正した内容】  
教育指導においても、地域の身近な教材を積極的に活用して理解を深めるだけでなく、郷土の良さについて目を向けるようにしている。



【加除修正した内容】  
生徒たちは地域学習を行い、反射炉検定を実施し知識を深めると共に、地域に対する愛着が深まるように学習してきた。

